

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるRO濃縮水移送配管フランジからの漏えいに対する再発防止対策に係る面談
2. 日時：令和元年11月12日（火）14時05分～15時20分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、松井安全審査官、高松係員、
山中係員、田上係員、長崎技術参与、高木技術参与
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクト計画部 担当1名
福島第一原子力発電所 担当2名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社から、RO濃縮水移送配管フランジからの漏えいに対する再発防止対策に関して、資料に基づき主に以下の説明があった。

- 事象概要
 - ✓ 本年2月15日、H1エリア西側のRO濃縮水移送ラインにおいて、漏えい拡大防止用の遮水特殊ポリマー保温（STOP）が施工された配管フランジ継手部から、配管に内包していた未処理水（ストロンチウム処理水）が漏えいした。
- 原因及び対策
 - ✓ 漏えい箇所フランジ下部の面間隔がフランジ上部より広がっていたことから、配管サポートの間隔が広い箇所にSTOP施工がされていたため、STOP本体の自重によりフランジ部に負荷が掛かったことが原因であると推定している。
 - ✓ 対策として、STOP施工箇所から200mm以内に配管サポートがない場合、又は目視で対策が必要と判断した場合には、フランジ部に負担が掛からないような支持治具を取り付ける。
- 対策の妥当性について
 - ✓ タンクヤードに敷設している移送配管は、可とう性を有するポリエチレン管を採用して耐震性を確保しており、地震により支持治具が破損した場合でも、巡視点検により比較的短時間で把握できるため、漏えいのおそれはないと考えている。

○原子力規制庁から、今回の事象の原因について、

- STOP本体の自重による追加の負荷によって金属製フランジボルトが伸びフランジ面間隔が広がったとしているが、定量的に示されていないこと
- 今回の事象は通常時に生じたものであるが、更に厳しい状態になると考えられる地震時荷重を考慮した場合の評価がなされていないこと
- ボルトの締め付け不足等のその他の想定要因が考えられていないことから、総合的に再度検討した上で、原因及び対策をとりまとめて説明することを求めた。

6. その他

資料：H1西エリアにおけるRO濃縮水移送配管フランジからの漏えい発生
(再発防止対策について)